



実技研修F



実技研修H



実技研修K

幼年美術

589

2017 10・11月合併号

発行所 大阪府東大阪市長田中4丁目6-3

ペんてる(株)大阪支社内

全国幼年美術の会 T577-0013 □(06)6747-1601

発行人 廣富靖海

年間購読料 3,000円 1部300円(送料込み)

全国幼年美術の会 第54回 夏季大学報告



絵を読む会

上に絵の具を塗りたくっています。さつきまで指先に絵の具をつけて線遊びをしていましたが、突然、目が輝き手のひら全体に絵の具をつけぐいぐい塗りたくりがはじまりました。イルムの上に絵の具を塗りたいっています。さつきまで指先に絵の具をつけて線遊びをしていましたが、突然、目が輝き手のひら全体に絵の具をつけぐいぐい塗りたくりがはじまりました。描いているというより、味わっているという方がぴったりのように思います。おいしいものを味わって食べているように、手で絵の具の感触を味わっているのです。自分の選んだ色を手で感じているのです。

幼稚だから楽しいのではありません。大人もやつてみたいはずです。大人は、絵筆に一番おいしいところを取られているのに、やせ我慢しているのです。

直接手のひら(身体)で感じるあたたかさ、やさしさ、つよさ、・・大切なそれらは、手のひらを通して何よりも速く正確に心にとどきます。



巻頭言

手で味わう、感じる



全国幼年美術の会 第54回夏季大学

8月5日(土)、京都市伏見区にある龍谷大学深草キャンパス2号館において、第54回夏季大学が開催されました。全国から保育所・幼稚園・こども園、小学校の先生を中心にして、189名、会場校である龍谷大学の短期大学部こども教育学科1回生136名、それ以外の大学生34名、全国・各地区幼美役員・スタッフ20名、合わせて379名もの参加者のもと、本年も活気の溢れる、有意義な学びの一 日となりました。

一方、運営上、事務的なミスが重なり、部屋割等では、大変ご迷惑をおかけすることとなりました。この場をお借りし、お詫び申しあげます。大変申し訳ありませんでした。事務体制の見直しを計り、次年度からはスムーズで快適な運営になるよう、努めてまいります。

午前中は実技研修を12講座に分かれて実施。各教室から、楽しそうな歓声が聞こえてきていました。詳細は後頁にて報告させていただきます。

講演は、齋藤亜矢(京都造形芸術大学)先生から「ヒトはなぜ絵を描くのか」芸術認知科学への招待」を講題にお話いただきました。直接には、保育・教育と重なるものではありませんが、人が表現することの根源的な意味を、様々な事例や根拠をもとにお話をいただきました。ご講題と同じですが、先生の著書『ヒトはなぜ絵を描くのか』芸術認知科学への招待』(岩波科学ライブラリ)を合わせ読ませていただくと、

より深い学びと気^づきとなることでし^ょう。当日お持ちいたいただいた本も完売で、多くの参加者が先生からサインをもらわっていました。とにかく極めて謙虚なお人柄ですが、学ぶことの基本を肌で感じさせてもらいました。私たちも、子どもから謙虚に学ぶ姿勢が大切だと、ご講演を拝しながら、思いを新たにしました。

午後からの「絵を読む会」、幼美が幼美と名乗る上では欠くことの出来ない、大切な学びの時間を、本年からはその全ての時間をかけて実施されました。例年は、年齢別実践発表を分科会で行っていましたが、その時間を全て、「絵を読む会」に充てられました。最初にお詫びした事務的ミスで、一部に混乱をきたしきご迷惑をおかけしましたが、例年よりもじっくり時間をかけ、絵を通して、その子どものこと、保育・教育のこと、様々な背景に思いを致して話し合いがなされました。ただ、その運営方法等についても、多くの課題や反省点もあり、今後とも、改良に改良を重ねながら、参加者にとつて、日頃の活動の鏡となり、明日への再スタート、原動力となる環境を考えていきたいと思います。
（羽溪）



絵を読む会

担当【京都幼年美術の会】

約50名（学生含む）が集まり12カ園が絵を持ち寄り、会が始まりました。0～2歳児のペンやパスを使っての描画から、描きやすい水性ペンを用意、カレンダーの裏紙を用意等、乳児は保育士の環境作りが大切であること、その時その時の状況、また発達段階に合わせた配慮が必要であること、できた！という達成感を感じることも経験させてあげたいと、いう意見が出ました。また『スイカ』を描く2歳児の表現から、子どもの自発的な活動なのか、保育士の形を求める思いが強くなつていいかななどの疑問も出てきて、考え方の機会となりました。

3～5歳児のテーマの中での表現から、「白い部分が残つてあるけれどどう言葉がけしたらいい？」と言ふ質問には、「子どもの思いを聞いて子どもが満足しているのなら共感すること」が大事。「ここで終わりにして欲しいのにもつと描きたい」という子どもにはどうしている？」という質問には、大人は紙の上の表現が真っ黒になる事が嫌なのかもしれないが、紙の上で時間がどんどん進んでいくのが子どもの世界ですよ」とアドバイスがあつた。また画用紙の

絵を読む会

担当 滋賀幼年美術の会

0歳児から5歳児、養護学校中等部の子どもたちの絵を見ながら、その時の活動の様子や保育者、教師のみなさんが戸惑っていることなどをお聞きし、共感したり考え合つたりしました。また、今回3人の先生方から指導助言をいただきました。

【0・1歳児】 ペンの先にタンポをつけてタンポンペンを作り、画用紙に点々とつけて遊んだ絵。手に絵の具がついたことにびっくりしてやめる子やおしりをふりふりしながら樂しく描く子など様々だった。

【2歳児】 初めはぬたくり遊びに大泣きしていたが、徐々にみんなの活



動を見て いるうちに 自らやりたくな
り 絵の具の 感触を 楽しんだ 子の 絵。
感触遊びの 苦手な子に どう 誘いかけ
るとよいか。

【3歳児】 アイスクリームの歌を歌
いながら描いた絵。予め絵の具にノ
リを混ぜておき、ハサミ遊びで切つ
たものをトップピングとしてくっつけ
楽しんだ。

【4歳児】初めはヘビを描いていた子が友だちの絵を見て影響を受け、公園の絵を描いたと言い直した子や表現が乏しく形を捉えられていらない子への指導について。

【5歳児】隣の子の真似ばかりする子や同じ表情の顔ばかり描く子、発達がゆっくりな子へのアプローチについて。

【養護学校】絵を描くことに苦手意識が強いが粘土遊びは喜ぶ子。自信を持つて描くようになるにはどうすればよいか。

大西先生 なぜ、保育で絵を描くのか、絵を描くことで何を育てようとしているのか。園では描かせることが目的になつていなか。感触遊びを好む子拒む子は何が違うか。

粘土はこちらからアプローチすると必ず反応が返ってくる。描材を持つて紙にトンとつけるとそこに跡が残る。子どもはそれを見てまた同じ行為を繰り返す。子どもの表現は伝達である。今、その子がやつている

ことを通して私たちに何かを伝えている。その子が何を伝えようとしているか、それを読み取る。話を聞きながら返していく。描けない子をどうしたらよいかとすることは、保育者の課題。子どもたちが色や形の世界に安心して入るには、ということを考えていくことが大切である。

黃瀨先生
卷之二

必ず子どもは絵を描くみんなの前で描かなくとも必ずどこかで描いている。一人ひとりあらわし方は違う。題材（テーマ）が違う絵を並べると発達の差は特にわからない。そのままの子のあらわし方を認める。あらわしある子とない子、先生とその子のつながりの中で理由がわかつてくる。隣で楽しそうにしている子を見るこ

とはとても大切。見本を見せてることで影響を受けることはよいこと。友だちどうし学ぶことができる。同じお絵かきを一斉にして一斉に終わることは難しい。やらない子というよりやりたい気持ちをやりたい貯金にためている子として捉える。

子どもに作品（を作る）という感覚はない。「残す」と思っていないから気楽にできる。子どもがつぶやいたことを絵に書きこんでよい。言葉がつながって見立てが始まり、言葉を身につけて思いを込めて伝えることが出来るようになる。家庭に帰つても大切に話し合つてもらえるように保護者にも説明する。自分の絵を大

絵を読む会

担当　【和歌山幼年美術の会】



持参された絵について、参加者から
の話を聞いて、幼美の担当者が助
言しました。

☆保育者は環境づくりが大事。乳児の時から色々経験していく。保育者が子供と一緒に活動を楽しみ、子ども一人ひとりの発想する力をのばし、表現をひきだしていく。

☆指導ポイント・・

①子供の思いをひきだす。
②技法を身に付ける
③画材の使い方の取得
これをしつかりする。

A. 大きく描くのが、全て良い事ではないが、太い筆や繩筆を使い、大きく描く面白さを味わせたら良いのでは ↓ 色々な画材を使い、色々な経験が出来るようになら絵が変わつてくる。

A. Q. A.
そなたが選ぶ表現をしていて、自分の思いが描かれているので、形にとらわれず褒め、基本的に描ける様にしていく事が大事。又、興味がどこまで続くか、発達度を見極めることも大事。
5歳児、小さく描いてしまう子には?
大きく描くのが、全て良い事

Q. 4歳児、カブト虫らしい表現は、どうしたら出来るのでしょうか?

A. Q.
2歳児、顔を描くが、いつもア
ンパンマン。最後はぐちやぐちや。
好きな色を選んで、自由に描

絵を読む会

担当【三重幼年美術の会】

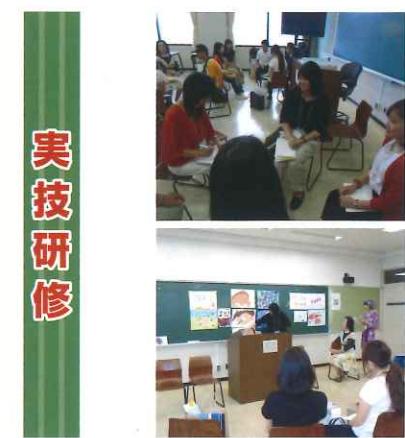
会の初めに全員が自己紹介とワンポイントコメントを出し合い、終始和やかなムードで会が進行されました。参加者が持参された子どもの絵を数回に分けて教室前方のホワイトボードに掲示して、提案や質問、討議が行なわれました。

ペール遊びが済んでから描いた2歳児の絵では、筆圧がしっかりといる、普段から描き慣れているようだなどの感想が出されました。この園では子どもたちが月に1回程、なぐりがきの経験をしているそうです。表現は保育内容の他の領域に深く関わっています。たとえそれが一本の線や丸であっても子どもの絵は家庭の姿を表しています。子どもの気持ちを発散しているものであります。「大きな丸はお母さん、少し小さな丸はお父さんを表してたりもする」という助言者の言葉でもありました。絵を描いているときの子どものつぶやきをしつかり聴くことも大切です。又、子どもが描画に没頭しているときは話しかけないのが原則であります。

1ヶ月間、園で飼っていたザリガニの絵では、「動きがあつてとても楽しそう」、茶色の大きな丸のザリガニの家（植木鉢）があることで、ザリガニは寂しくない等の感想が出され、絵を描いたあと、ザリガニが少し弱つてそだから「池に帰

してあげよう」ということなり、子どもたちの中で、命に対する意識も深まつたそうです。

雨の日の絵を描いた4歳児の絵には、「色がとつてもいい」、「傘だけではなくお友だちの顔が出てくるともつといい」等の意見が出され、園では家庭と同じ環境（家族）をつくり、常に子どもが真ん中にいて（絵にも表れる）、子どもと一緒に学ぶことが大切せあると意見に集約されました。会の終わりには3つのグループに分かれそれぞれ自己紹介や園の様子の交流等でさらに親交が深まり、たかさんの得るものがあつた思います。参加者は19人でした。



実技研修A

担当【全国幼年美術の会】

本質的自己の表現をより豊かにしよう

講師…木代喜司

実技研修B

担当【中国幼年美術の会】

いろいろな版画あそび

講師…山脇由美子

スタッフ…大久保あづさ
後藤絵里菜

参加者20名がまずスponジローラ

何を描くか明確でないまま描くことの面白さを知る。何を描くといふことなしに筆に絵の具をつけ自由に一筆線を引く。その線をたよりに色のぬり分けをしたり、更に線をつけ加えたりして形を描き出していく。

色のぬり分けを主として描く人より、更に線をひいて形を作っていく人が多かったです。色をぬる人は好きな色をどんどんぬり重ね、太陽、波、雨を想像している線で形を作るのは花を描く人が多かったです。

小さく小さい時から花を描くことが多かつたのだろうと思われます。中に自分

の母の目の病をテーマに母の目の中を想像して描いた人もいました。各人の経験や思いをふまえた自由な絵を描いていました。もつと描く機会が多くなれば更に自由な絵が生まれてくると思われます。

絵というものを単に外界を写すものではなく、自分の内面の考え方や思いを映し出すものとして、自由に描いていけることを知つて欲しいです。

2 紙版画

動きのある人間を作る。手足の曲がりや髪の毛が動きのあるように工夫する。紙を無駄なく使う。刷りは版にインクを適量つけ、刷り紙に伏せ、その上に新聞紙をかぶせて足で踏む。かかとやつま先を使つてきれいな刷りにする。

3 共同制作

グroupeでテーマ（春夏秋冬）を決めて大きな紙に人間をうまく配置して、周りはローラー遊びでしたことを色々と施す。スタンピングやステンシルを組み合わせて、季節感のある素晴らしい作品となつた。五枚の共同制作を鑑賞し合いました。

- ・ 気をつけることとして
- ・ インクの出し方、のばし方、練り盤の使い方など。

- ・ 練り盤やローラーの後始末、ローラーは洗つて乾燥後、保護用の輪つか

ーを使って様々な遊びをした。その後、ケント紙B4一枚を使って人間を作り、四人一組で大きな版画（模造紙大）の共同制作をした。



*必ずはめて保管すること。
共同制作の刷り紙としては、模造
紙よりも、長さを自由に調節でき
るジャンボロール紙がよい。

実技研修C

担当】(公財)美育文化協会

紙や身近な材料を使った 楽しい造形基礎講座

講師…秋山道広

紙の特性を理解し紙の変身へ、そ
してわたしの変身(透明シートのお
面)とあわあわマシーンを作つて遊
ぶという実技研修を実施しました。
実技を学ぶというよりは、幼年美術
で大切にしたい「子どもたちが楽し
みながら色や形にかかわる姿」を具
現化できる講座として取り組みました。
その中で基本となる「安心と安
全」は造形することを楽しみ好きに
なる出発点でもあります。

まず、紙の種類と特性を「紙目」
に注目し変身させました。かたさと
柔らかさを感じ、被つてみて暗さと
明るさ、そして網目で視界が広がる
一連の流れの中で、手や全体を使
い材料にかかりました。
子どもに「こういう特性があるか
らこう使え」というより「感じなが
ら試し、つくりながらつくりかえ、
さらに私がつくる」という常に子
どもが造形の主役であり、それが造
形を楽しむための安心感につながり
ます。

後半の「色」についても同様。「あ
わわマシーン」のつくりかたから
スタートしましたが、選ぶ色と色の
置き方、構成は多種多様です。よさ
得意満面、大人の予想を超えてい
ます。

や美しさの感じ方も千差万別で、大

人は「どんどん色を混ぜると濁る
ね」とマイナスで捉えがちになります
が、子どもたちは「色をどんどん
混ぜると、すごくかっこいい色にな
ったよ」と材料を変化させたこと
得意満面、大人の予想を超えてい
きます。

子どもたちが試しながら楽しみ、
材料用具が自分のものになつた時に
こそ、創造的な技能が働き、表現す
る喜びを味わつていると言えるでし
ょ。

実技研修D

担当】京都幼年美術の会

アートセラピーを中心とした 楽しい造形あそび

講師…奥山淑子
スタッフ…寺内静子
中村澄江
福田尚子

- ① *まずは会場内の初めて出会つた
人と6人グループになりましょ
う
- *好きな色のパスをひとつ選んで
絵を描こう! おしゃべりはしません
テーマは自由!
- *次は乳児さんになつて描いてみ
よう! 乳児の子どもたちは人の事
なんてかまわない!
- *さつき描いたものの上からど
んと描いて、さつき描いたも

のが見えなくなつたり周囲の友
達が侵入してきてどう思つた?
思つたことを話してみよう!
「ぬりつぶすのおもしろい!」
「しゃべらないのって難しい」

② *バスは片付けて、テーブル上に
用意されていたバケツにえのぐ、
でんぶんのり、みずを入れて混
ぜよう!

*ドロドロ状態になつたらバス
で描いた紙の上にのせて『ファ
ンガーペインティング』スター
ト! 両手でえのぐを広げたり、
指で線を描いたり遊んでいるう
ちにえのぐの下からさつきのパ
スの線も見えてくるので会場か
ら「きれい!」の声
線をたくさん描いたら新しい模
造紙を上からのせてみよう!

最初、全く知らない友だちの中
での遊びは不安、緊張、遠慮がいっぱ

いだつたことと思います。知らない友だちの中でも自己発揮できる人もいれば、周りの人を見ながら描く姿もありましたが、遊んでいく中で、解放されて生き生きと活動する姿が増え、素敵な表現になりました。「友達の中では自分を出すことができる」とは保育士としても原点であります。現場でしつかり自分の意見を持ち、自分の意見が言える保育士でありたいですね。今日は遊びを通して心の開放を経験。心がすつきりして実技研修終了となりました。



実技研修会
担当 「和歌山幼年美術の会」

2
牛乳パックを使って飛び出すおもちゃ作りでは、それぞれイメージしながら取り組み楽しい作品が出来上がりました。その作品を使ってグループでお話作りへと導き、更にイメージを膨らませる面白さを感じながら発表してもらいました。

36名の参加者と共に、「作つたもので遊んで楽しかった」で終わるのも印象的でした。

このような遊びや活動（作品）を通して参加者の輪が広まり、時がたつにつれ参加者の和らぐ表情が、とても印象的でした。

この3つの約束のポイントを押さえ、制作途中の方も一緒に「5・4・3・2・1」とカウントしながら空中に舞うロケットに「わー」「高く飛んだよ」と歓声を上げては「更に高く：」との思いが伝わる程、部屋中が楽しい雰囲気に包まれました。

として、
①人に向けて飛ばさない。
②誰かに筒を持つてもらつたりせ
ず一人です。
③発射の合図を守る。

- として、
①人に向けて飛ばさない。
②誰かに筒を持つてもらつたりせ
ず一人です。
③発射の合図を守る。

実技研修E

担当 大阪幼年美術の会

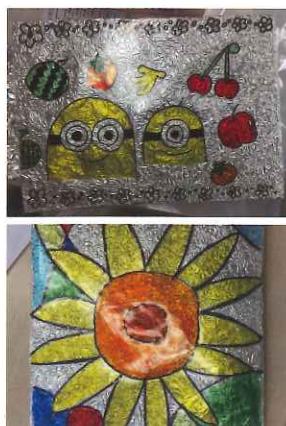
キテキテ光ってキレイ！
～身近なものを変身して～

講師… 平井洋子
島津多美子
乾 美穂
松村英子

ではなく、次の活動・遊びへと繋げていけるような、発展性のあるものを大切にしていくことの重要性を感じた実技内容でした。

実技研修G

担当（四国幼年美術の会）



LEDをつての実技

日常生活にいつの間にか広く使われるようになったLED。5つの利用パターンで、輝く明かりを作り出す試みに挑戦しました。

34人の参加があった。使うのは参
講師・池村 進
スタッフ・谷岡経津子
池村智津子

美術と科学と手品の
トリプルコラボレーション
く見えない糸の製作から、
見えてくる子どもの姿

実技研修

担当【三重幼年美術の会】



幼稚園と一緒に、明かりを生かした形作りや暗くした場所で明滅する光の美しさを楽しんだ後は、友達と一緒に見せ合い楽しむ大切な時間を作り出すことができる。この実技の教室でも、最後に全員の作り出した明かりをじっと見つめて、振り返る姿がとても印象的でした。

安く手に入るようになつたLEDランプ。手軽に加工したり、利用したりできる素材として、様々な活用法をさらに見つけ出したいと感じました。

- 段ボールチップで組み立てた亀、その隙間からこぼれるLEDの明かり。
- 水をつけ、輝くLEDの明かり
- LEDランタンの明かり
- LEDランタン(キャンドルタイプ)
- 転がる仕組みの中で発光し明かりがこぼれるLED

加者が持ち寄った使用済みのペットボトルと、担当者で用意したれびとナット、ぺんてる様にご用意頂いたカラーペンなど。たれピンは彩色されて魚や宇宙飛行士などに変身! ペットボトルも海や宇宙に変身。魚が泳いだり、宇宙遊泳等がパスカルの原理とアルキメデスの定理を利用して展開されるこの遊び。簡単に出来て、工夫次第で様々な世界を体験できる夢いっぱいの遊びである。園に帰つたらぜひ子どもたちと楽しみたいと好評であつた。

保育者自身が、このような科学遊びに関心を抱くことが、子どもの遊び心や科学的な芽生えを育み、表現活動を活発にし、様々なことへの意欲や生きる力にもつながるとの指導講師の話があつた。最後に講師手作りのパソコンソフトでもこの遊びが展開された。パソコンにストローをつなぎ、ストローを吹いて画面の魚をある一定の高さまで吹き上げると子どもの笑顔が現われ、画面いっぱいに子どもの笑顔が溢れると、歓声が上がつた。

実技研修

担当【滋賀幼年美術の会】

「わたしとねんどが
なかよしになる活動」

講師・黄瀬重義

土ねんどは、人間にとつてもつとも古い自然の仲間です。なぜかなつかしい思いになる感触ではないでしょうか。

なにかをつくろうとするより、ずっと触ってみたい。たたく、のばす、まるめる・・・土ねんどとの対話の始まりです。そこに現れた「かたち」に、子どもの思いがくつづきます。

その願いを土ねんどはすべて叶えてくれるわけではありません。じつと握っていると乾いてきます。放つておくと固くなります。土ねんどの方から子どもにいろいろ条件をつきつけてきます。

土ねんどは、単なるものをつくる材料ではありません。土ねんどは、土ねんどのままで、子どもにとつて大切な仲間です。人をつくる、動物をつくる、いろいろなものを作ります。

そのためだけ土ねんどがあるわけ

ではありません。

むしろ、紙粘土や油ねんどなどに比べるとあつかいにくいねんどです。そのあつかいにくさこそ、子どもがすこやかに育つ大切な活動をもらして貰えるのです。こういうことを意識してもらって、参加全員で、思いつきり、土ねんどを体感してもらいました。

実技研修

担当【全国幼年美術の会】

「目で耳で手で
「木」を感じてみよう
く保育における木育」

講師・矢野 真
スタッフ・亀田梨帆(京都女子大3回生)
藤田今日菜(京都女子大4回生)

活動においてまず始めに、4種類の木をやりをかけことで香りの違いを感じた。香りの違いについて嗅覚を研ぎ澄まして感じる参加者20名の様子は、真剣且つ木が醸し出す安らかな雰囲気に包まれているようでした。

次に木の接着をでんぶんのりで行う活動を行いました。参加者の多くは木工用接着剤を思い浮かべる中、でんぶんのりを使用したことに対して、目を丸くして驚く様子が伺えました。保育現場での実用性を考えると、でんぶんのりは安全面に



おいて適材であり、でんぶん成分を用いた接着は、木工芸の美術作品にも（ご飯粒を練りつぶしてつくったソクイという接着剤）使用されます。この事は「木育」を保育現場で取り入れる一例として、参加者の興味・関心をより引き付ける体験となりました。

木屑を使つた人形づくりでは、木屑の触感を楽しみながら、袋に入れた木屑を思い思いの人形に作り上げました。木屑の触感や色から受けたインスピレーションから参加者の個性や感性が溢れる作品が生まれました。制作を行う真剣な姿からは、まるで人形に命が吹き込まれるかのようで大変印象的でした。

嗅覚、触覚が刺激された今回の活動から、参加者は木に対する興味・関心が高まつていたように感じました。この興味・関心が今後、「木育」として保育現場で実践され、子どもの感性を育むことに大きく展開していくことを期待します。

実技研修K

担当【招聘(立命館主学校)】

人ひとりの象徴記号づくりと

「コミュニケーションツール
発展を体験しよう！」
幸せ色の名刺づくり

師・横澤茂夫
國方善博
室田太郎

深い学び方を体験する前に、「気
づき学習——学びの三段階」の確
認をしました。

一段階 鋼をどうする力など。
①考る力（思考力）②決める力（判断力）
③まとめる力（表現力）など…。つ

まり、生きる力である！

トライン ②課題の提示 ③課題解決のための切り口の提示 ④活動…一入学び（個人学び）・集団学び（友だち学び）・全員によるよいところ発見・シートによる振り返り。

三段階（獲得する能力）①自己肯定感 ②他者受容能力 ③共生の能力と住み分けの能力。

実践（活動）：①コミュニケーションツールの一つである名札とは？思わず聞きたくなる、質問したくなるインパクトのある名札を目指そう！
②名札づくりの約束：名札は、縦向きでも横向きでもよい。漢字、ひらがな、カタカナ、ローマ字など文



字の種類は自由。ただし、文字同士は必ずくっつける。（文字は読めなくとも良い）→ 読めない方がより良い）③一人学びと集団学びの繰り返しで象徴記号の形成と発展を図り、学びの質を高めていく。具体的には、まず、それぞれの名前を線で表現していくが、一人学びと集団学びを繰り返すことで、文字の大きさや太さなどに変化が見られ、彩色表現でも幸せ色を中心にグラデーションや反対色、コントラストや強弱、模様（水玉、ストライプ、チェックなど）など、名札づくりの楽しさや面白さを味わいながら、インパクトのある名札が生み出されました。その後、良いところを発表し合いました。

あの暑かつた夏から、既に季節は紅葉の美しい、又朝夕の冷え込みが厳しい季節となりました。夏季大学の報告号、大変遅くなりました。

幼年美術の会が、「幼美」の名を語れる証は、普段関わることの絵を共に持ち寄り、その絵を通して、その子どもたちの育ちや思いや背景について、参加者が語りあう場と時間が、研修の場できちんと保障されているか否かが大前提となります。

そして、「絵を読む会」での学びを通して、自身の子どもへの日頃からの関わりや、子どもの育ちや学びの環境について、改めて問い合わせ直す鏡として働いていくことが、目指す方向です。

今回、本誌掲載の「絵を読む会」の様子を伝える画像を見ていると、特に人物の表現で、「幼美の場に、こんな悲しい絵が持ち寄られるのか・・・」と少なからぬショックを受けますが、この現実を受け止めて、何故そのような絵になってしまったのか？先生方自身が、自分の心を見直し、そこから脱却していくきっかけや、強い後押しが出来る会として、幼美の歩みを進めて行かねばなりません。そういう意味からも、若手ばかりではなく、ベテラン、主任・教頭、園長・校長クラスの先生方への参加も図つていかねばならないと痛感しています。

又、ご意見やご要望をお寄せください。ネット関係ですが、Facebook（フェイスブック）「全国幼年美術の会」を検索いただき、そちらのメッセージ欄をご利用いただき、お声をお寄せください。（羽溪）